

岐阜県北アルプス 登山ガイドブック

平成24年度版



岐 阜 県 警 察 本 部
岐 阜 県 山 岳 遭 難 防 止 対 策 協 議 会
岐 阜 県 北 ア ル プ ス 山 岳 遭 難 対 策 協 議 会

- 1 北アルプス(岐阜県側)での遭難事故の概要…………… 1
 - ◇ 平成23年中の北アルプスにおける遭難事故の特徴等
 - ◇ 過去5年間(平成19年から平成23年)の遭難事故発生状況
 - ◇ 山岳別発生状況
 - ◇ 態様別発生状況
 - ◇ 主な遭難事例(春山・夏山・秋山・冬山)

- 2 北アルプス山岳情報…………… 4
 - ◇ 危険地帯
 - ◇ 各シーズン毎の危険
 - ◇ 北アルプス雪崩発生危険場所(岐阜県側)
 - ◇ 各山岳危険情報
(西穂高岳エリア、奥穂高岳エリア、槍ヶ岳エリア、双六岳・三俣蓮華岳・黒部五郎岳エリア、笠ヶ岳エリア、焼岳エリア、乗鞍岳エリア)
 - ◇ 参考 ※その他の岐阜県の山(白山・御嶽山・恵那山)

- 3 登山届の提出
～登山届は、あなたの命を守るザイルです～…………… 10
 - ◇ 何のために登山届を出すの？
 - ◇ 登山届の記載事項
 - ◇ 登山届の提出先、提出方法
 - 提出機関
 - 登山届ポスト設置場所
 - ◇ 下山報告
 - ◇ 登山届記載例

- 4 遭難しないために
～これだけは守ろう 10箇条～ …………… 13

- 5 服装と持ち物 …………… 16
 - ◇ 登山用品
 - ◇ 衣類等
 - ◇ 食料等

登山は、自己責任において行わなければなりません。
それは、
『計画から帰宅するまでの一切を自分でやり遂げる』と
いうことです。

1 北アルプス(岐阜県側)での遭難事故の概要

◇平成23年中の遭難事故の特徴等

- ・ 登山者数の増加(5年前の約1.3倍)に伴い、遭難事故発生件数が51件と過去最多を記録した。
- ・ 夏山シーズン(7月～9月)の発生が多い。 … 78.4%
- ・ 登山届未提出者の遭難が高い比率を占める。 … 49.1%
- ・ 中高年層(40才以上)の遭難が多い。 … 73.8%
- ・ 単独登山者の遭難が多い。 … 21.3%
- ・ 山岳会等の組織未加入者の遭難が高い比率を占める。 … 52.5%
- ・ 自身の登山レベルを超えた登山が原因と思われる『転倒』『道迷い』『発病』による遭難が大幅に増加した。

◇遭難事故発生状況

年別	区分	発生 件数	遭難 者数	遭難者数(人)			県内 発生件数	県内 遭難者数
				死者	行方不明	負傷 無傷		
平成19年		45	59	7	0	25 27	63	78
平成20年		39	48	3	3	25 17	55	67
平成21年		38	41	7	3	17 14	56	70
平成22年		40	51	2	1	31 17	67	84
平成23年		51	61	5	0	31 25	85	101

◇山岳別発生状況

山域別	区分	遭難件数(件)				
		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
乗鞍岳		2	1	4		1
焼岳		1	1	1	1	1
槍・穂高連峰	西穂高岳	12	8	3	8	8
	間ノ岳		1	1	1	
	奥穂高岳	6	11	11	9	12
	澗沢岳	5	1	2	2	2
	北穂高岳	1	2	2	3	3
	槍ヶ岳	4	1	2	2	4
	南岳	3	3		2	
抜戸岳			1		2	2
双六岳		2	5	5		2
笠ヶ岳		2	1	5	7	7
錫杖岳		1	2		1	3
その他		6	1	2	2	6
計		45	39	38	40	51

◇ 態様別発生状況

態様別	区分	遭難件数(件)				
		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
転落・滑落		13	12	8	19	11
転倒		3	9	11	8	13
発病等		10	7	11	8	13
道迷い		8	7	5	2	11
雪崩		1	1			
その他		10	3	3	3	3
計		45	39	38	40	51

※岐阜県警察本部生活安全部地域課調べ

◇ 主な遭難事例

春

H18.4 (雪崩) 笠ヶ岳直下の穴毛谷で山スキーヤーを巻き込む大規模な雪崩が発生し、4名が死亡

H19.3 (道迷い) 乗鞍岳にて山スキーヤー(単独)がルートを誤り、谷筋に迷い込み、行動不能となったためスキーを外し、滝の右岸をトラバース(登山やスキーで山の斜面を横断すること)する際にバランスを崩して約100m滑落し、死亡
【登山届未提出】

H19.5 (転落) 西穂高岳から山荘へ向けて下山中、1人が雪庇(※(1))を踏み抜き滑落。互いの安全確保のため、ロープで身体を結びあっていた同行者3名も転落し、救助要請
【登山届未提出】

H23.3 (疲労) 写真撮影のため単独で西穂高岳へ入山したが、夏山程度の装備品しか携行していなかったため、寒さや疲労から低体温症になり行動不能となって救助要請
【登山届未提出】

夏

H18.7 (転落) 西穂高岳から奥穂高岳へ縦走中、西穂高岳のピークから少し先で、大きな岩が崩れた影響で転落し、死亡

H21.8 (転落) ツアー登山中、高山病からくる体調不良のためルート変更し、南岳新道をガイドと下山中、ハシゴ場付近でバランスを崩して転落し、死亡

H22.7 (滑落) 4名パーティーで白出沢雪渓(※(2))を下山中、アイゼン・ピッケル等を所持していなかったため滑落し、重傷
【登山届未提出】

H23.8 (転落) 2名パーティーで西穂高岳へ向けて縦走中、1人がピラミッドピーク北側のくさり場付近の濡れた岩場でスリップして転倒し、約100m転落し、死亡
【登山届未提出】

秋

H18.10 (悪天候) 4名パーティーで西穂高岳から奥穂高岳へ縦走中、ジャンダルム付近で悪天候と降雪のため行動不能となり、3名が凍傷を負い、1名が凍死

H21.10 (転倒) 北穂高岳から奥穂高岳へ縦走中、降雪等により体力が無くなり転倒。アイゼン、ピッケル等の装備品も所持していなかったため行動不能となり救助要請

H22.9 (滑落) 西穂山荘から西穂高岳へ向けて縦走中、ピラミッドピーク手前50m付近で浮石を踏んでバランスを崩し約50m滑落し、重傷
【登山届未提出】

H23.9 (発病) 8名パーティーで西穂高岳から奥穂高岳へ向けて縦走中、天狗のCOL付近で不調を訴えると同時に倒れ、心肺停止となり死亡
【登山届未提出】

冬
山

H19.12 (雪崩)	槍平小屋付近の露営地にてテント泊中の登山者グループ計7名が雪崩に巻き込まれ、4名が死亡
H20.12 (雪崩)	4名にて抜戸岳へ向け登山中、テント設営の準備に取りかかったが、2名が翌日のルート確認のため抜戸岳東尾根方向へ向かっていたところ、山頂付近から発生した雪崩に巻き込まれ、死亡
H21.1 (道迷い)	西穂山荘から間ノ岳までの登山中、悪天候のため西穂高岳ピークで引き返したが、丸山付近で吹雪のためルートを見失い、日没になり疲労のため救助要請
H22.1 (悪天候)	7名パーティーのガイド登山中、悪天候と大雪で動けなくなり、救助要請
H23.11 (落石等)	2名パーティーで錫杖岳を登はん中、仲間が落石を受け負傷したため行動不能となりビバーク。翌朝、同行者がサポートしながら下山を開始したがクリヤ谷を渡渉する際、増水のため流され、死亡 【登山届未提出】

※(1)雪庇(せっぴ)

雪庇とは、雪のかぶった山の尾根、山頂などで、風が一方方向に吹き、風下方向にできる雪の庇である。放置すると、自重に負けて崩落するまで際限なく大きくなる。



登山者が稜線と誤って雪庇上を歩いて踏み抜き、谷へ滑落したり、崩壊するとブロック雪崩の原因になる。

写真中①の領域には雪にひび入っているのが見える。この後、③の領域は崩落し、②の場所が新たに雪庇の先端となった。

※(2)雪渓(せっけい)

雪渓とは、高山など標高の高い場所の谷や沢の積雪が溶けずに残った地帯である。

雪渓は、スノーブリッジ形状を呈し、下部には沢があり、水流があることが多い。

雪渓を踏み抜き、転落する事故が多い。



② 北アルプス山岳情報

北アルプス南部(岐阜県側)には笠ヶ岳、双六岳、槍ヶ岳、穂高連峰、焼岳などの日本を代表する山々が連なっています。

ほとんどが標高3,000mを越す険しい岩稜であり、ルート上には多数のハシゴ場やクサリ場が設置されているなど危険な場所です。

◇ 危険地帯

岐阜県警地域課、岐阜県山岳遭難防止対策協議会では、次の2つの区域をオールシーズンで危険地帯に指定しています。

危険地帯①

【下記分布図①参照】

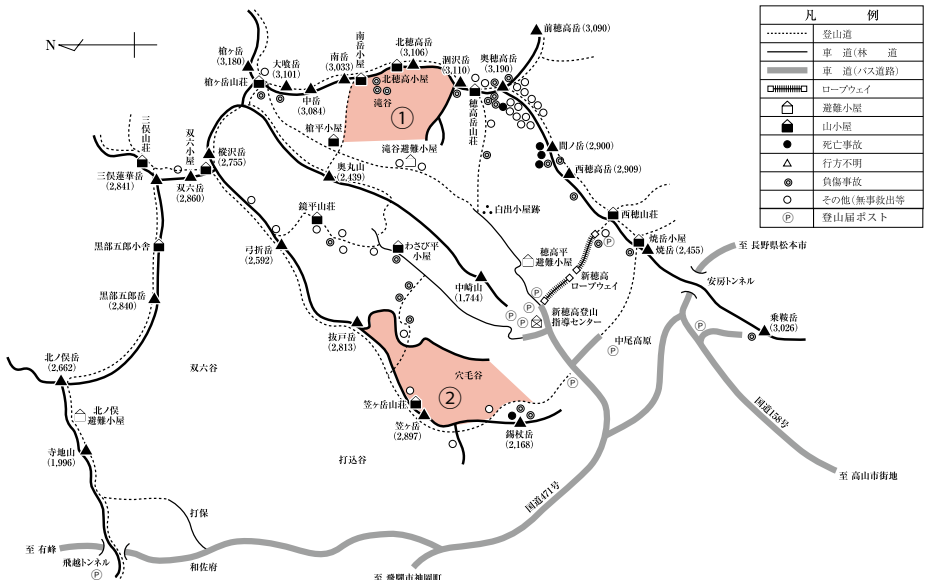
南岳南西尾根～南岳～北穂高岳～涸沢岳～蒲田富士で結ばれる区域

危険地帯②

【下記分布図②参照】

広サコ尾根～クリヤの頭～笠ヶ岳～抜戸岳～抜戸岳南尾根で結ばれる区域

危険地帯と平成23年山岳遭難事故発生分布図



◇各シーズン毎の危険

○春山シーズン

・降雪等、天候の急変に注意！

ふもとは初夏の装いでも山では天候が急変すれば降雪もあり、冬山に様変わりします。低気圧の通過に伴い、気温の急降下、突風や落雷が発生することも珍しくありません。

防寒着、アイゼン、ピッケルなどの積雪期の登山装備が必要です。

・雪崩に注意！

気温の上昇などに伴う雪崩、雪庇の崩壊・踏み抜きに十分な注意が必要です。雪崩注意報が発表されていなくても雪崩が発生することもありますので常に注意が必要です。

特に各沢筋のルートは、新雪が積もった後に不安定となり表層雪崩が発生する危険性が高くなります。

・滑落に注意！

残雪により登山道はほとんど見えません。

北アルプスの稜線付近は急峻なルートが多いため雪上スリップによる滑落の危険性が高く、注意が必要です。

○夏山シーズン

・転落、スリップ、落石に注意！

稜高連峰一帯は、急峻な岩場で浮石も多いため特に下山中につまずいたりバランスを崩しての転落が多く、注意が必要です。また、落石を警戒するとともに、自身による落石を発生させない配慮も必要です。

・ガスの発生に注意！

夏山では午後からガス(雲)が発生することが多く、落雷の危険もあるため目的地への早出早着に心がけましょう。

・低温に注意！

山岳地帯では高度による低温に加え、強風が吹くため夏山シーズンであっても低体温症の危険があり、速乾性の下着や防水透湿素材の雨具の携行など濡れ対策が重要です。

荒天時の行動は控えるなど、常に慎重な行動判断を要します。

○秋山シーズン

・天候の急変に注意！

秋山は、天候が変わりやすいのが特徴です。

台風や前線の通過などにより、山岳地帯の気象は大きく変化します。

常に情報収集を行い、登山の中止や引き返しなどの確な判断が必要です。

・防寒対策を確実に！

ふもとは残暑が続いていても、山の上では確実に季節が変化しています。例年、9月中旬には初氷、10月には初雪・積雪となりますので積雪期の登山装備が必要です。

○ 冬山シーズン

・滑落に注意！

登山道は、アイスバーン状態となるので滑落に注意しましょう。
また、雪渓等のスノーブリッジでの踏み抜き、滑落にも注意しましょう。山小屋等に危険箇所を問い合わせ、危険箇所の情報収集をしましょう。

・道迷いに注意！

吹雪・濃霧のため視界が悪く、道に迷うことがあるので注意しましょう。

・雪崩に注意！

雪崩には十分な注意が必要です。

・雪庇に注意！

例年、強風により稜線では雪庇が大きく張り出します。
雪庇の崩壊、踏み抜きに十分な注意が必要です。

・天候の急変、断続的な降雪に注意！

降雪が数日間にわたる恐れがあるため、十分な装備と余裕を持った登山計画を立てる必要があります。

北アルプス雪崩発生危険場所(岐阜県側)

※ 以下で示す場所以外でも雪崩が発生する場合がありますのでご注意ください。
入山に際しては、常に雪崩・雪庇の崩壊等に対する警戒が必要です。

配 意 事 項

- ☆ 気象の確認！ ☆ 万全の装備！
- ☆ 余裕を持った計画(日程・技量)

◎ 穴毛谷～左俣谷～秩父沢～大ノマ乗越方面

○ 穴毛谷

穴毛谷は、『雪崩の巣』であり、谷の中ではあらゆる方向から雪崩が発生するため積雪期に足を踏み入れることは大変危険な場所です。

笠ヶ岳と抜戸岳の南側に位置する穴毛谷全域で大規模な雪崩が発生し、山スキーヤーが巻き込まれる事故も発生しています。【H18.4 4名死亡】

○ 左俣谷(左俣林道ワサビ平小屋付近～下抜戸沢付近)

林道まで達する雪崩が多発する地域です。

岩小舎沢、下抜戸沢等の沢筋を中心に雪崩が発生するため、横切際には注意が必要です。

○ 左俣谷(左俣林道下抜戸沢出合付近～大ノマ乗越)

下抜戸沢等の抜戸岳東斜面からの雪崩を始めとする雪崩の多発地帯です。抜戸岳と弓折岳の東側斜面に位置する登山道へ向かい下抜戸沢・奥抜戸沢・秩父沢・秩父小沢等あらゆる沢付近で雪崩が発生します。【H20.12 2名死亡】

◎ 穂高平付近～右俣谷～飛驒沢～飛驒乗越方面

- 右俣谷(穂高平付近～滝谷出合付近)
各谷、沢との出合は、全て要注意箇所です。
西穂高岳の北側に位置する穂高平避難小屋、白出小屋跡、滝谷避難小屋付近登山道に位置する柳谷・ネボリ谷・白出沢・ブドウ谷・チビ谷・滝谷等あらゆる谷・沢付近で雪崩が発生します。
- 右俣谷(滝谷出合付近～飛驒乗越)
各谷、沢との出合は、全て要注意箇所です。
南岳、中岳、大喰岳、槍ヶ岳の西側に位置する滝谷避難小屋、槍平小屋付近登山道東側に位置する滝谷・南沢・中ノ沢・大喰沢・飛驒沢等あらゆる谷・沢付近及び同登山道西側に位置する各谷、沢付近で雪崩が発生します。
- 奥丸山(槍平小屋付近)
比較的安全と思われている槍平付近も危険です。
奥丸山東側斜面に位置する各谷・沢付近で槍平小屋付近林道へ向かって雪崩が発生しています。 【H19.12 4名死亡】

各山岳危険情報

◎ 西穂高岳エリア

- ・ 積雪期や残雪期、千石尾根や丸山付近は降雪やガスによりトレース(踏み跡)が分からなくなり、方向を見失いやすいので注意が必要です。
- ・ 独標から西穂高岳山頂の間は、大小13のピークが連続する切り立った岩稜帯です。この間は浮石も多く、落石、つまずき、雨や氷によるスリップが原因となる滑落、転倒遭難が多発しています。
岩稜歩きの経験者がいないパーティーは独標までとすべきです。
また、西穂高岳から奥穂高岳への縦走は北アルプスで最も険しい岩稜縦走ルートであり、体力、技術、経験、的確な気象判断ができる上級者向きです。
- ・ この山域は夏の午後に落雷が多く、西穂山荘より上部では避難場所もないことから天候の変化には細心の注意が必要です。
- ・ アプローチで利用するロープウェイは季節によって始発や最終便の時刻が変わるため、事前の確認が必要です。

◎ 奥穂高岳エリア

- ・ 白出沢ルート標高1,900m付近の渡渉地点には一本橋がありますが、増水時に渡れない場合もあり、無理は禁物です。
また、残雪時には雪渓が残り、スノーブリッジ上を渡ることとなるため細心の注意が必要です。
- ・ 旧荷継小屋跡地付近でのルートは、道迷いを原因とする遭難発生危険箇所です。
荷継沢を横断して白出沢へ入ってください。
- ・ 白出沢上部は、7月下旬でも雪渓が残っており、スリップによる転倒事故が発生しています。
雪渓が残る時期は滑り止めが必要です。
- ・ 白出のコルから奥穂高岳へ向かうハシゴ場は急な岩稜であり、雨天時や積雪期はスリップによる転落、滑落事故が発生しています。三点支持による移動など岩場歩きの基本を実践するとともに、自身が落石を引き起こさないよう、慎重な行動が求められます。

- ・ 奥穂高岳山頂から西穂高岳へ至る縦走ルートは切り立った岩峰が連続し、浮石も多いため、落石、転落、滑落による死亡、重傷遭難が発生しています。
上級者向けのルートにも関わらず、近年は体力不足、経験不足、装備不足のまま縦走を敢行するパーティーが増え、疲労による行動不能、発病、道迷いを原因とする遭難が多発しています。
- ・ 濁沢岳から北穂高岳の岐阜県側は滝谷と呼ばれるロッククライミングエリアです。
縦走ルートも岩稜の上り下りが続き、クサリ場、ハシゴ場があるため、浮石、落石によるバランス崩し、転落、滑落事故が発生しており、慎重な岩場歩きが求められます。

◎ 槍ヶ岳エリア

- ・ 新穂高温泉から槍平の間にある白出沢、滝谷は荒天時に増水し、渡渉が困難となる場合があるので無理は禁物です。
また、積雪期は右俣谷に合流する各沢は雪崩が発生し、大変危険です。
- ・ 積雪期は、槍平周辺でも南沢、中ノ沢、大喰沢、飛驒沢、奥丸山側などの各沢から発生する雪崩に警戒が必要です。
- ・ 南岳新道は南沢からの登りでは西尾根の取付でのルートテープの確認、下りではヤセ尾根、ハイマツ帯の通行に注意が必要です。

◎ 双六岳、三俣蓮華岳、黒部五郎岳エリア

- ・ 双六岳方面は、槍・穂高連峰に比べなだらかな斜面が多く、無雪期であれば技術的には初心者向けですが、登山行程は長く、体力を要するコースです。
この方面では近年、発病や疲労が原因の遭難が多発しており、持病や体力に応じた準備や登山計画が重要です。
- ・ 双六岳周辺は残雪期のバックカントリースキーエリアとしても人気がありますが、左俣林道沿いの岩小舎沢、下抜戸沢、秩父沢、奥秩父沢などの沢は、稜線付近から発生する巨大な雪崩が林道まで達するため注意が必要です。
- ・ 双六岳、三俣蓮華岳付近はなだらかな斜面であり、ガスなどで視界不良となった場合、方向を見失いやすいので注意が必要です。
- ・ 黒部五郎岳は新穂高温泉、飛越トンネルのいずれから入山しても行程が長くなり、疲労から行動に支障が出る場合があるので、各自の体力・技術に合わせ、ゆとりのある登山計画が必要です。

◎ 笠ヶ岳エリア

- ・ 笠新道、クリヤ谷道の両コースとも行程が長く、近年は下山する際に疲労が重なり、木の根や石でスリップ・転倒する事故が発生していますので十分な体力と万全な体調管理が必要です。
- ・ 杓子平付近はガスなど視界不良時にルートが分かりにくいことがあります。急登のため体力差からパーティー内で別行動をとったため、互いに連絡が取れず心配となり救助要請するといった形態の遭難も発生しており、統率のとれた行動が必要です。
- ・ 積雪期は弓折岳から抜戸岳の稜線上に巨大な雪庇が発現します。
雪庇の踏み抜きや崩落による滑落に注意が必要です。
また、雪庇の崩落は、雪崩を誘発する原因ともなります。
- ・ クリヤ谷道は行程が長く、エスケープルートも無いことから初心者や体力に不安のある登山者は、入山を控えましょう。
近年、疲労による転倒や行程が遅れて日没となり、道迷いとなった事案が発生しています。
また、荒天時はクリヤ谷の渡渉点が増水し、通過が困難となるため無理をせず、待機しましょう。
- ・ 穴毛谷は積雪期に周辺の沢筋などで発生する雪崩が集まり巨大雪崩が発生する大変危険なエリアですので注意しましょう。

◎ 焼岳エリア

- ・ 行程が短く、初心者向けのルートですが、鍋助横手付近は急斜面を横切るため谷側への転落に注意が必要です。
- ・ 新中尾峠から焼岳山頂の間はなだらかな斜面が多く、視界不良や積雪により迷いやすいので注意しましょう。
- ・ 焼岳は、今も活動を続ける活火山です。
山頂付近では現在も火山性ガスを含む噴気活動が継続しており、風のない時の噴気孔や噴気地帯の窪地は大変危険です。
危険箇所には絶対立ち入らないでください。

◎ 乗鞍岳エリア

- ・ 剣ヶ峰は標高3,026mですが、乗鞍スカイラインや整備された登山道を利用することで初心者でも短時間で登山することができます。
しかし、山岳地帯特有の厳しい気象状況となる場合が多いため、十分な登山装備が必要です。
- ・ なだらかで広い斜面が多いですが、整備されたコース以外は危険ですので立ち入らないようにしましょう。
- ・ ガスなどで視界不良となると方向を見失いやすいため、特に、夏の午後などは周囲の天候に注意が必要です。
雷雲の接近など悪天候が予想される場合は、速やかに避難できる場所まで下山しましょう。
- ・ 年により、畳平周辺では夏から秋にかけてツキノワグマの出没情報が頻繁にあり、警戒が必要です。

※参考 その他の岐阜県の山

◎ 白山

- ・ 平成23年中の山岳遭難発生件数(岐阜県側)が4件、遭難者数が5人と平成22年と比べて大幅に増加しました。
- ・ 山頂に通じるルートは、いずれも長距離であるため、冬期は山中泊が必要です。
- ・ 白山は日本海に近いため、冬期間は荒天の日が多く、登山日程が予定よりも長くなる場合があることから十分な予備装備・予備日等が必要です。
- ・ 頂上付近は、風雪がひどく、また、弥陀ヶ原は広いので道に迷う危険性が高くなります。
- ・ 雪崩の危険性も高く、注意が必要です。

◎ 御嶽山

- ・ 登山道は整備されていますが、冬期間は積雪量が多く、かなりの時間を要することから余裕を持った登山計画を立ててください。
- ・ 山頂部の縦走は、通称「お鉢巡り」と呼ばれて人気がありますが、高山ですので天候の変化には十分注意が必要です。
- ・ 強風で雪面が固くなっているため、アイゼン歩行は慎重に行いましょう。
- ・ 悪天候時には、ルートを見失ったり、自分の位置が分からなくなるので注意が必要です。

◎ 恵那山

- ・ 12月から翌年の4月下旬頃までは、積雪があり、完全な冬山装備が必要です。吹き溜まりも所々にあり通常の倍以上の行動時間を必要とします。

3 登山届の提出

～登山届は、あなたの命を守るザイルです～

登山に行くときは、家族・所属するクラブ(山岳会等)・職場・学校等に行き先、登山日程等を連絡しておくとともに、必ず山岳を管轄する警察署等に登山届を提出しましょう。

これまでも登山届を提出したおかげで、命拾いしたという事例が数多くあります。

◇ 何のために登山届を出すの？

- ・ 登山届を作成することにより、自身の登山計画を見直すことができる。
- ・ 万一、事故に遭ったとき、遭難場所を特定しやすく、救助活動をスムーズかつ効率的に行うことができる。
- ・ 事故発生時、家族や関係者と素早く連絡を取ることができる。

◇ 登山届の記載事項 (P. 12の様式参照)

- ・ 登山者の氏名、住所、携帯電話番号等
- ・ 緊急連絡先
- ・ 登山日程(各ポイントに到着する予定時間等)
- ・ 目的の山岳名
- ・ 登山方法
- ・ 行動予定(地図や略図などで登山ルートを表示)
- ・ 装備品

◇ 登山届の提出先、提出方法

各山登山口等に設置の登山届ポストへの投函、関係機関〈次頁掲載〉への提出、郵送、FAX、ホームページからのオンライン、メール等各種方法で受け付けています。



【登山届ポスト(焼岳登山口)】

○ 提出機関（どの機関に提出していただいても結構です）

岐阜県警察本部 生活安全部 地域課	〒 500-8501 岐阜市藪田南 2-1-1 TEL : 058-271-2424(内 3584) HP : http://www.pref.gifu.lg.jp/police/ mail : c18885@pref.gifu.lg.jp
岐阜県高山警察署地域課 又は交番・駐在所	〒 506-0009 高山市花岡町 2-39 TEL : 0577-32-0110 FAX : 0577-32-6709
岐阜県飛騨警察署地域課 又は交番・駐在所	〒 509-4252 飛騨市古川町朝開町 1401 TEL : 0577-73-0110 FAX : 0577-73-6612
岐阜県北アルプス 山岳遭難対策協議会事務局	〒 506-1121 飛騨市神岡町殿 1075-3 飛騨警察署神岡警部交番内 TEL・FAX : 0578-83-0099 HP : http://www.kitaalpsgifu.jp/ mail : info@kitaalpsgifu.jp

○ 登山届ポスト設置場所(P. 4の分布図参照)

※番号下㊦=ステンレス製 ㊧=木製

	設置場所	対象山岳、方面
①	新穂高登山指導センター出入口脇 (高山市奥飛騨温泉郷神坂地内)	笠ヶ岳、双六岳、西穂高岳、 槍ヶ岳等
② ㊦	左俣林道ゲート脇 (高山市奥飛騨温泉郷神坂地内)	笠ヶ岳、双六岳、三俣蓮華岳、 わさび平小屋等
③ ㊦	右俣林道起点 (高山市奥飛騨温泉郷神坂地内)	西穂高岳、南岳、槍ヶ岳、 穂高平小屋等
④ ㊧	新穂高ロープウェイ 新穂高温泉駅建物内	西穂山荘等
⑤ ㊧	新穂高ロープウェイ 西穂高口駅建物内	同上
⑥ ㊧	乗鞍岳登山口 (高山市奥飛騨温泉郷平湯地内御食事処あ んき屋出入口脇)	乗鞍岳
⑦ ㊦	笠ヶ岳登山口 (高山市奥飛騨温泉郷神坂地内クリヤ谷 入口)	錫杖岳、笠ヶ岳等
⑧ ㊦	焼岳登山口駐車場 (高山市奥飛騨温泉郷中尾地内)	焼岳等
⑨ ㊦	北ノ俣岳登山口 (飛騨市神岡町打保地内飛越トンネル南方 広場)	寺地山、北ノ俣岳等

◇下山報告

下山した際には、登山届提出機関に対して下山届を提出し、下山の報告をしましょう。
下山届用紙は、上記登山届ポストに設置してあるものの他、任意の様式でも構いません。

◇登山届記載例

山岳団体名 リーダー 住所・氏名	奥飛驒山岳会 住所 岐阜県高山市花岡町0-0 氏名 高山岳士 (35歳) 職業 会社員 性別 男				緊急 連絡先	住所 岐阜県高山市 上宝町本郷000 氏名 山田太郎 TEL 0578-00-0000 090-0000-0000
氏名	年齢	性別	職業	住所	電話番号	山岳保険契約先
山岳太郎	35	男	会社員	高山市桐生町0-0	0577-00-0000	〇〇共済組合
穂高花子	30	女	無職	高山市名田町0-0	0577-00-0000	未加入
食料	3日分 行動食(有)	行程				
通信手段	トランシーバー (無し MHz) 携帯電話 (090-0000-0000)	<p>○目的の山域・山岳名〔 槍ヶ岳・双六岳 〕</p> <p>○目的〔 登山 魚釣り 山菜採り 作業等、その他() 〕</p> <p>○登山方法〔 通常登山 沢登り 岩登り その他() 〕</p> <p>日程 (ルート、宿泊地点、山岳名等)</p> <p>・7月20日 入山</p> <p>(新穂高)入山口 → (槍ヶ小屋)経由 → 宿泊地(槍ヶ岳山荘)</p> <p>5:00発 10:00着 11:00発 16:00着</p> <p>・7月21日</p> <p>(槍ヶ岳山荘)経由 → (西鎌尾根)経由 → 宿泊地(双六小屋)</p> <p>6:00発 15:00着</p> <p>・7月22日 下山</p> <p>(双六小屋) 経由 → (鏡平山荘)経由 → 下山口(新穂高)</p> <p>6:00発 11:00着 12:00発 16:00着</p> <p><緊急時のエスケープルート></p> <p>・1日目 奥丸山経由で左俣林道へ下山 槍ヶ岳山荘から上高地へ下山</p> <p>・2日目 千丈乗越から槍ヶ小屋へ下山 もしくは奥丸山を經由し、左俣林道へ下山</p>				
宿泊	小屋泊 テント泊 泊なし					
装 備 品						
<ul style="list-style-type: none"> ・テント (無) ・シュラフ (無) ・雨具 (有) ・ヘッドランプ (有) ・コンロ (無) ・ザイル (有) ・ツェルト (無) ・ピッケル (無) 						

4 遭難しないために ～これだけは守ろう 10 箇条～

◎ 計画の段階から遭難していませんか？

登山のスタートは、自分の経験や技術、体力等を把握・勘案し、余裕ある日程でコースを決定し、参加者全員が携行装備品などを検討して計画を立てることです。

この計画に無理があったり、装備が不十分な場合は、遭難につながってしまうことを肝に銘じてください。

過去の遭難事故を研究して『他山の石』とし、有事の際の予備ルートや行動判断基準をあらかじめ考えておきましょう。



◎ 山岳保険に加入！

遭難等の有事を想定し、山岳保険に加入しましょう。

長期間にわたる捜索等には莫大な費用がかかることがあります。

◎ 登山届の作成、提出を！

登山届（計画書）の作成は、重要な最初の第一歩です。

家族や職場、警察署等へ必ず提出しましょう。

◎ 日程・装備は充分ですか？

山は、天候が急変するものです。

予定を変更して滞在せざるを得ない場合もあることから、余裕のある日程で無理な行動は避け、『早出 早着』を心がけましょう。（日没の2時間前には下山、山小屋へ到着できる日程）

また、地図やコンパス等の必需品は勿論、燃料・食料・医療装備などを準備するとともに、ラジオ・携帯電話・無線機も携行しましょう。

※ 各機器の電池は、保温措置を講じるとともに予備電池も準備しておきましょう。

◎ 単独登山は大きなリスク！

単独登山者の遭難は、疲労や怪我で行動できなくなった場合に助けを呼ぶことができず、死に至るケースがあります。

また、行方不明となった場合に捜索・救助が開始されるまでに長時間かかる場合があるなど、単独登山は大きなリスクがあります。

できるだけパーティーを組んで登りましょう。

◎ 万全の体調で！

高血圧等の持病のある登山者が登山中に倒れたり、行動不能となり、救助を求めるケースが目立ちます。

入山前にはトレーニングを行い、必要により病院等で診察を受け、医師に相談する等、体調管理を万全にして登山しましょう。

登山中は、意識的に仲間と声を掛け合い、こまめに休憩をとって糖分・水分補給をし、心身をリフレッシュしましょう。



◎ リーダーの責任は極めて重大！

最近、各人がバラバラで行動し、統率のとれていないパーティーが目立ちます。

リーダーは、全員をまとめ、安全を最優先にした統率のとれた行動をさせるとともに、状況によっては引き返す決断も求められます。

リーダーは、メンバー全員の命を預かっているのです。

◎ 天候・気象判断は的確に！

天候・気象判断のミスは生命に関わる遭難につながります。

山岳地帯では天候が急変しやすく、低気圧の前線による影響も平地より早く始まり、遅くまで残るため、早めの天候判断が必要です。

- ・春山＝短い周期で天候が大きく変化し、吹雪となることもあります。
冬山と同じ条件となることを想定しておきましょう。
- ・夏山＝局地的豪雨、落雷に注意が必要です。
また、夏山であっても気温が10℃以下となり、低体温症となり、行動不能となる恐れもあります。
- ・秋山＝昼夜の寒暖の差が激しく天候の急変により雪となることもあります。
また、台風シーズンでもあります。
- ・冬山＝年間で降雪が最も多い時期です。
数日間にわたる吹雪などで行動できなくなることがあります。
雪崩にも注意が必要です。



登山前に気象情報を入手して行動計画を検討するとともに、登山中も、最新の気象情報を入手し、行程を「中止する」、「引き返す」、「停滞する」などの的確な判断で行動しましょう。

荒天の場合、ヘリでの救助は不可能です。

また、地上部隊による救助活動が制限される場合もあります。

- ※ 突然の雷雨時の対応
避難小屋や岩陰で小雨になるのを待ちましょう。
雨により、沢筋では、急激な増水や鉄砲水が出る場合があります。
崖下は落石の危険があるため、休む場所を選びましょう。
- ※ 雷時の対応
尾根筋から離れたところで、周りより低い場所で姿勢を低くして避難しましょう。
大木の下は危険です。夏の雷は午後に発生するのが一般的です。

天気予報サービス

- テレホンサービス
岐阜県飛騨地方予報：0577-177
岐阜県一帯週間予報：058-262-0177
- NHKラジオ第1放送
飛騨高山地域：792kHz
飛騨神岡地域：1341kHz
- NHKラジオ第2放送
飛騨高山地域：1125kHz
飛騨神岡地域：1539kHz

◎ 雪崩に注意!

過去の遭難事例を研究するなど雪崩多発地帯を事前に把握し、多発地帯には近づかないようにしましょう。

雪崩による遭難時の救助の際に非常に有効なビーコン(発信器)等の装備品を携行するとともにテントサイトやルートの選定を慎重に行いましょう。

ラジオ等の天気予報サービスを利用して積雪、降雪の状況や気温の変化等タイムリーな情報を入手しましょう。



◎ 火山性ガスに注意!

焼岳、御嶽山は、今も活動を続ける活火山です。

山頂付近では現在も火山性ガスを含む噴気活動が継続しています。

風のない時の噴気孔や噴気地帯の窪地はガスが溜まりやすく危険です。

危険箇所には絶対立ち入らないでください。

※ 県内の火山について

焼岳、乗鞍岳、白山、御嶽山、アカンダナ山は火山(概念過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山)とされています。

万が一、気象庁からの「噴火警報」が発表された場合は、すみやかに指示に従ってください。

5 服装と持ち物

北アルプスは、標高3,000m級の山が連なる山岳地帯です。

天候の急変や気圧の変化など自然条件は厳しく、夏でも朝夕は気温が10℃以下になることがあります。

ハイキング気分に登ると思わぬ事故に遭遇します。

下記一覧表を参考に遭難防止、非常時に有効な装備品を準備してください。

なお、テント泊や厳冬期の入山、岩登りなどにはそれぞれの用具が必要になります。



◇ 登山用品

◎：必需品 ○：状況によっては持参のもの △：あれば便利な物

品名	無雪期	積雪期	チェック欄	備考
登山靴	◎	◎		防水透湿性でハイカットのもの
防水袋	◎	◎		予備のウエアなどを収納
ストック	△	△		バランスを保ち、足腰の負担軽減目的
ピッケル		◎		滑落防止の必需品 訓練が必要
アイゼン		◎		滑落防止の必需品 10～12本爪がよい
ビーコン、スコップ、プローブ		○		雪崩遭難対策には必携
ヘッドランプ	◎	◎		防水LEDタイプがよい 予備電池必要
サングラス・ゴーグル	○	◎		積雪期は雪目防止のため必携
ナイフ	◎	◎		緊急時に重宝
ホイッスル	◎	◎		非常時に居場所を周囲に知らせるため
腕時計	◎	◎		コンパス・高度気圧計機能付が便利
コンパス	◎	◎		事前にルートナビゲーションの練習を
地図	◎	◎		1/25000地形図または登山地図を準備
ハンディGPS機器	△	△		現在地の把握や行動記録のため
高度計、気圧計、温度計	△	△		現在地の把握のため
ガイドブック	◎	◎		必要箇所をコピーして携帯

品名	無雪期	積雪期	チェック欄	備考
筆記用具	◎	◎		行動記録などに利用
携帯電話、予備電池	◎	◎		機器の保温や不感地帯での電源オフ
無線機	△	△		携帯電話不感地帯で有効な通信手段
ラジオ	△	△		気象情報の入手に便利
ロールペーパー	◎	◎		芯を抜き、防水袋に入れて携帯
救急用品、常備薬	◎	◎		
ツェルト	◎	◎		ビバークシェルターとして必要
キャンドル、防災マッチ	◎	◎		ツェルトビバーク時の灯り、暖房に有効
身分証明書、健康保健証	◎	◎		

◇ 衣類等

◎：必需品 ○：状況によっては持参のもの △：あれば便利な物

品名	無雪期	積雪期	チェック欄	備考
帽子、ヘルメット	◎	◎		熱射病、頭部保護のため
目出帽		◎		凍傷防止のため
レインウェア	◎			防水透湿素材のもの
アウタージャケット		◎		防水透湿保温効果の高いもの
防寒着(フリース・ダウン)	◎	◎		山地では夏でも10℃以下となる
アンダーウェア(下着)	◎	◎		速乾性のものとし、綿素材は避ける
替えアンダーウェア	◎	◎		下着が濡れた場合の体温維持のため
機能性アンダーウェア	△	△		筋力サポートタイツなどは有効
手袋、グローブ	◎	◎		手の保護、保温のため
スパッツ	◎	◎		靴内への異物侵入防止のため
タオル、手ぬぐい	◎	◎		様々なものの代用品として有効

◇ 食料等

◎：必需品 ○：状況によっては持参のもの △：あれば便利な物

品名	無雪期	積雪期	チェック欄	備考
食料、飲料水	◎	◎		行程に合わせ必要量を持つ
保温ボトル	△	◎		積雪期は飲料水の凍結防止のため必要
非常食	◎	◎		ビバーク等緊急時に必要不可欠
ストーブ、コンロ	○	○		積雪期など熱湯が必要な場合に有効
クッカー(炊事用具)	○	○		
ライター	◎	◎		緊急時に重宝



夏の大キレット

Photoby(c) Nature-Free URL[<http://nature-free.com>]

マナーを守り楽しい登山を

- 登山は上り優先です。互いに譲り合い、助け合って楽しい登山にしましょう。
- 道標は、登山者の安全を守っています。傷つけたり壊したりしないでください。
- テントは、指定地に設営しましょう。深夜まで飲酒して騒ぐなど他の登山者に迷惑をかけないようにしましょう。
- ゴミや空缶は持ち帰り、自然を大切にしましょう。
- 立入禁止のお花畑には入らないこと！貴重な高山植物はみんなで守りましょう。

編集 岐阜県危機管理課
岐阜県警察本部生活安全部地域課
岐阜県警察山岳警備隊
岐阜県山岳遭難防止対策協議会
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会
発行 岐阜県危機管理課

